

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	土浦市立土浦第三中学校第1学年 1組：31名 2組：31名 3組：31名 4組：30名 5組：32名 6組：32名 7組：32名 合計219名 ※体験活動には、3組31名参加。他学級は見学
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育・総合的な学習の時間） 2 行事名（ ） 3 その他（ ） (2) 地域における活動 1 イベント名（ ） 2 その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○車いすバスケットボールを通じて、パラリンピック候補選手であっても、自分たちと同じ悩みや考えをもっていることに気付かせ、障がい者を理解しようとする態度と、パラリンピックへの啓発・理解を深める
5 取組内容	○講演会『車いすバスケットボールに出会って』 講師：財満いずみ先生： 日本車いすバスケットボール連盟強化指定選手 講師：橋 香織先生： 一般社団法人シッティングスポーツ協会副理事長 ・橋先生が財満先生にインタビューする形式で、財満先生の生い立ちや車いすバスケットに出会い、東京パラリンピックを目指すまでになった経緯についての話を聞く事ができた。   ○デモンストレーションの見学『車いすバスケットってどんなスポーツ』 ・橋先生より、車いすバスケットボールのルールや、専用の車いすの安全対策や工夫について学習した。



○車いすバスケットボールの体験学習

・橘先生の指導とスタッフの方々より補助をいただき、生徒が車いすに乗車し、
①基本操作②ドリブルとシュート③ミニゲームを体験した。



6 主な成果

○講演会・体験会実施後の生徒感想文より

・車いすバスケは、障害者の人だけがやるスポーツのイメージをもっていました。しかし、講演を聞いてからは「障害のない人でもできるんだ、おもしろそうだな」と思うことができました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・財満さんが小学校6年生で、脚を動かすことができなくなり、車いすを使わなければならないようになってしまった時、周りの友だちがそのことを受け入れてくれたことについては、驚きました。 ・障害を「しょうがない」と受け入れ、「(車いすバスケット) やりたくないと思った時はやらないし、やりたいと思った時はやる」という財満さんの言葉は、「その通り」だと思いました。 ・車いすにはけがをしない工夫がされていたり、『クラスわけ』というルールがあったりして、車いすバスケットは『みんなのスポーツ』だということがわかりました。 ・(普通の車いすと比較して) こぐのがとても軽くて楽でした。また、後ろに倒れたりしないので、安心して(車いすバスケット) 楽しむことができました。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○昨今は、パラリンピックに出場する選手を『特別な技能をもったアスリート』とのとらえ方をする風潮が強まり、一般の障害者からパラリンピアンを特別に分離するというとらえ方を助長しかねない状況にある。講師の生い立ちや障害を負った経緯等、ありのままの姿を見たり聞いたりすることで、パラリンピアンは特別な存在ではないこと、障害者自身も自分たちと同じく夢や希望に向かって、日々の課題や問題を『受け入れる』など努力の過程にあることに気付かせる内容とした。</p>
8 主な課題等	<p>○開催時期の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ等の流行時期は避ける。 ・講師の競技大会や練習会・合宿練習時期など、講師の負担も考慮した時期開催に配慮する。 <p>○講師選定時の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長距離の移動や講師単独での移動は講師に多大な負担をかける。 ・学校ホームページへの掲載など、個人情報管理への配慮をする。 ・多くの経験としっかりとした見識をもつ団体からの講師派遣を依頼する。 (専門的な知識をもった支援スタッフが必要) <p>○施設設備の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施会場の障害者用トイレや多目的トイレ、スロープや手すりなどバリアフリー等の設備の点検整備をする。 ・着替えや義足等の装着など、プライバシーが確保できる控え室を準備する。 ・体験活動等の効率化のため、適切な数の車いすや用具を準備する。 <p>○支援者の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が車いす等を使用する際には、経験豊富な支援者が必要不可欠である。 ・教職員相互の共通理解と共通認識が必要である。
9 来年度以降の実施予定	<p>○幸いにも近隣に経験豊かでしっかりとした見識をもつ団体があり、ねらいを達成することができた。今後は『インクルーシブ教育』の他に『福祉教育』や『人権教育』の視点を持ち、関係団体と協働体制を構築して内容やあり方について発展させていきたい。</p>